



# カルビーグループ決算説明会

2022年3月期上期  
2021年4月1日～2021年9月30日

TSE code : 2229  
カルビー株式会社  
2021.10.29

# **1. 2022年3月期上期総括と今後の経営方針**

**代表取締役社長兼CEO 伊藤 秀二**

# **2. 2022年3月期上期業績報告**

**専務取締役兼CFO 菊地 耕一**

# 2022年3月期上期総括と今後の経営方針

---

代表取締役社長兼CEO  
伊藤 秀二

- 中期経営計画基本方針に基づき施策を実行
- 期初の想定以上の原材料高騰やばれいしょ不足懸念がある中で、売上・利益計画を達成

重点課題	主な取り組みと総括
国内既存事業： 新たな価値の創出と 高収益の実現	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新価値製品が市場に受け入れられ、家庭内消費需要に対応した製品も好調</li><li>・ 定番品の売上増により、販売費は改善</li><li>・ 国内シリアルは機能訴求強化、間食需要の取り込みを図るも、課題残す</li> <li>・ デジタル技術の導入によりバリューチェーンの効率化を進める</li></ul>
海外事業： 重点4地域の事業拡張	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 北米、英国、インドネシアで新製品を投入</li><li>・ 中華圏ではスナックが成長</li></ul>
新規事業： 新たな食領域での 事業確立	原材料仕入れの拡大等のシナジー効果により 甘しょ事業が拡大

- 通期計画達成と中長期の成長に向けた施策を実行
- 原材料調達リスク低減等サプライチェーンのレジリエンス強化

## 重点課題

## 2022年3月期下期以降の方針・施策

国内既存事業：  
**新たな価値の創出と  
高収益の実現**

- ・ スナックの価格・規格改定  
原料ばれいしょ不足、食油等高騰に対応し、  
ポテトチップス値上げ、じゃがりこ内容量変更
- ・ シリアルは顧客層拡大に向け、規格改定、  
新製品発売、製品リニューアルを実施  
成長著しいオートミール市場に参入
- ・ 原料ばれいしょのさらなる安定調達体制の構築と  
生産技術革新を推進

海外事業：  
**重点4地域の事業拡張**

- ・ 原材料高騰に対し、価格・規格改定実施
- ・ カルビーブランドの浸透を引続き図る

新規事業：  
**新たな食領域での  
事業確立**

ばれいしょに次ぐ新規素材および新規事業による  
成長機会を積極的に探索

# 規格改定（2022年1月24日～）

掘りだそう、自然の力。

**Calbee**

北海道産ばれいしょ収量減と食油等原材料高騰に対応するため、一部製品の値上げと内容量変更を実施

## ポテトチップス

価格改定

改定率 7～10%



内容量変更

63g→60g 85g→80g



CVS向け

## じゃがりこ

内容量変更

60g→57g 72g→68g



# 国産ばれいしょ収量減リスクへの対応

## ■ 国内ばれいしょ産地の分散化

北海道内エリア拡大、東北地方での産地拡大

## ■ 輸入ばれいしょの拡大

期間の制限・・・2020年に撤廃

端境期（2月～7月）のみ → 通年可能に

## ■ 海外グループ工場からの製品、半製品輸入

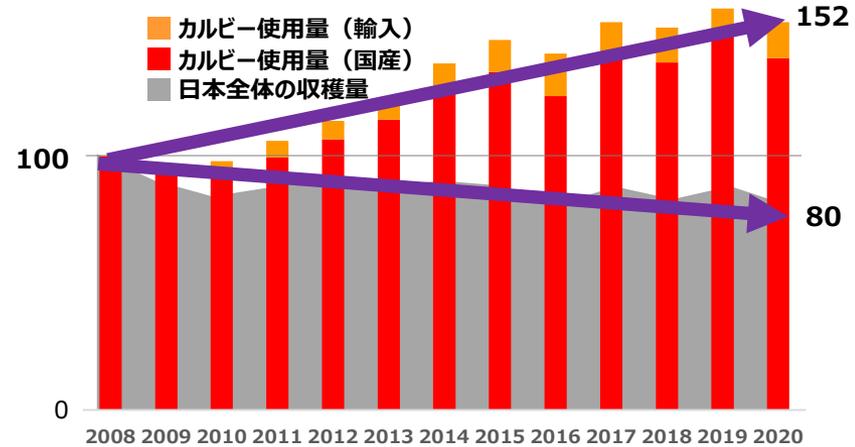
## ■ 品種の転換 & 新品種、栽培技術開発

## ■ ばれいしょ以外の素材を使用した製品・事業開発

### ばれいしょ収穫量・使用量の推移

※2008年を100とした場合の2020年の値

日本国内でのばれいしょ収穫量 80  
カルビー使用量 152



# 株主還元方針

## 利益還元の充実と資本効率の向上を図るため株主還元方針を変更

現：連結配当性向40%以上



新：連結総還元性向50%以上

安定配当を維持+機動的な自社株買い

### 2022年3月期 還元策（計画）

#### ■ 配当

1株当たり52円（前期比2円増） 期初予想から変更なし

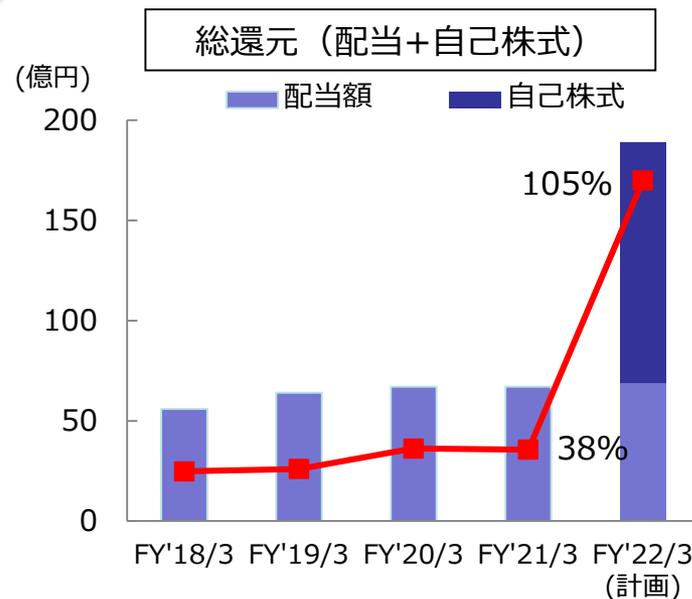
#### ■ 自己株式取得

金額：120億円（上限）

株数：5,500千株（上限）

期間：2021/11/1～2022/3/31

方法：東京証券取引所における市場買付



# 2022年3月期上期業績報告

---

専務取締役兼CFO  
菊地 耕一

## 【再掲】

2022年3月期第1四半期の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等の適用により、これまで販売管理費に計上していた一部の販売費（リベート等）を売上高から控除しております。

総売上高・・・一部の販売費を控除する前の売上高

純売上高・・・一部の販売費を控除した後の売上高

この変更に関する本資料における取扱いは以下のとおりです。

	2022年3月期 上期	2021年3月期 上期
総売上高 製品別売上高 地域別売上高	従来どおり	従来どおり
リベート等控除	総売上高から控除する 一部の販売費	なし (販売管理費に含まれる)
純売上高	総売上高から 一部の販売費を控除	なし
営業利益	従来どおり	従来どおり
営業利益率	総売上高を分母として計算	総売上高を分母として計算

# 2022年3月期上期業績

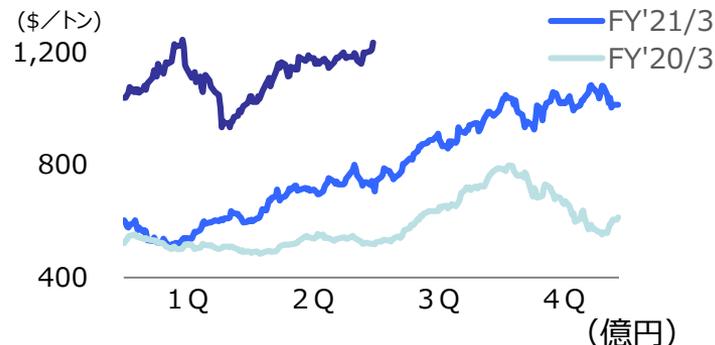
掘りだそう、自然の力。



## 決算サマリ

- **総売上高** 国内、海外いずれもスナック好調により増収
- **営業利益** 世界的に食油をはじめとした原材料価格が高騰する中、国内は増収効果および販売費の抑制により、高騰影響（6億円程度）をカバーし、増益  
海外は高騰影響（5億円程度）をカバーできず減益
- **当期純利益** 営業利益の伸長に加え、為替差益等により増益

パーム油FOBマレーシア相場



	2022年3月期 上期実績	2021年3月期 上期実績	伸び率	2022年3月期 上期計画	計画比
<b>総売上高</b>	<b>1,362</b>	<b>1,309</b>	<b>+4.0%</b>	<b>1,345</b>	<b>101.3%</b>
純売上高	1,204	—	—	1,183	101.8%
<b>国内総売上高</b>	<b>1,057</b>	<b>1,043</b>	<b>+1.4%</b>	<b>1,047</b>	<b>101.0%</b>
純売上高	934	—	—	923	101.3%
<b>海外総売上高</b>	<b>305</b>	<b>267</b>	<b>+14.2%</b>	<b>298</b>	<b>102.2%</b>
純売上高	270	—	—	260	103.8%
<b>営業利益</b>	<b>133</b>	<b>130</b>	<b>+2.2%</b>	<b>133</b>	<b>100.0%</b>
営業利益率（対総売上高）	※1 <b>9.8%</b>	<b>9.9%</b>	<b>△0.2pts</b>	<b>9.9%</b>	<b>△0.1pts</b>
国内	122	114	+7.3%	119	102.9%
海外	11	16	△32.9%	14	76.4%
<b>経常利益</b>	<b>136</b>	<b>127</b>	<b>+6.5%</b>	<b>131</b>	<b>104.0%</b>
特別損益	△2	△1	—	△3	—
<b>当期純利益</b> ※2	<b>92</b>	<b>82</b>	<b>+11.6%</b>	<b>85</b>	<b>108.0%</b>

※1 営業利益率（対純売上高）は11.0%

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

- **総売上高** <スナック> 「じゃがりこ」好調および豆系スナック「miino」等の新価値商品の伸長により増収  
 <シリアル国内消費向け> 前年巣ごもり需要の反動により減収  
 <シリアル海外輸出> 商流変更（中国子会社への売上移管）による減収△11億円  
 <その他> 甘しょ事業が拡大
- **営業利益** 食油価格の高騰があったものの、増収効果およびスナックの販売費抑制により増益

(億円)

	2022年3月期上期		
		前年同期比	
<b>国内総売上高</b>	<b>1,057</b>	<b>+14</b>	<b>+1.4%</b>
スナック	877	+29	+3.4%
ポテトチップス	411	+1	+0.2%
じゃがりこ	179	+13	+7.9%
新価値商品・その他スナック	287	+15	+5.5%
シリアル（国内消費向け）	126	△12	△8.9%
シリアル（海外輸出）	6	△9	△61.3%
その他（甘しょ・ばれいしょ・役務提供）	49	+7	+17.7%
リベート等控除	△123	—	—
<b>国内営業利益</b>	<b>122</b>	<b>+8</b>	<b>+7.3%</b>
営業利益率	※ <b>11.5%</b>	<b>+0.6pts</b>	—

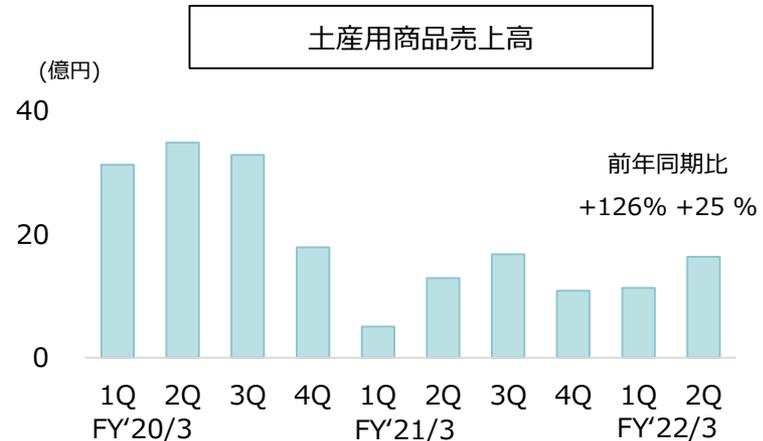
※営業利益率（対純売上高）は 13.1%

## スナック

ポテトチップス：売上は前年同期並（堅あげポテトの高い需要は継続）  
府県産ばれいしょ収穫遅れ等により、販促抑制、一部製品を休売・発売延期

じゃがりこ：期間限定品の積極投入と包装形態の多様化（「bits大モリ」等）により増収

新価値商品・その他スナック：「miino」および「ポテトデラックス」が好調  
土産用商品は、インバウンド・国内旅行の低調は続くが、  
物産展および一般チャネルでの販売により増収

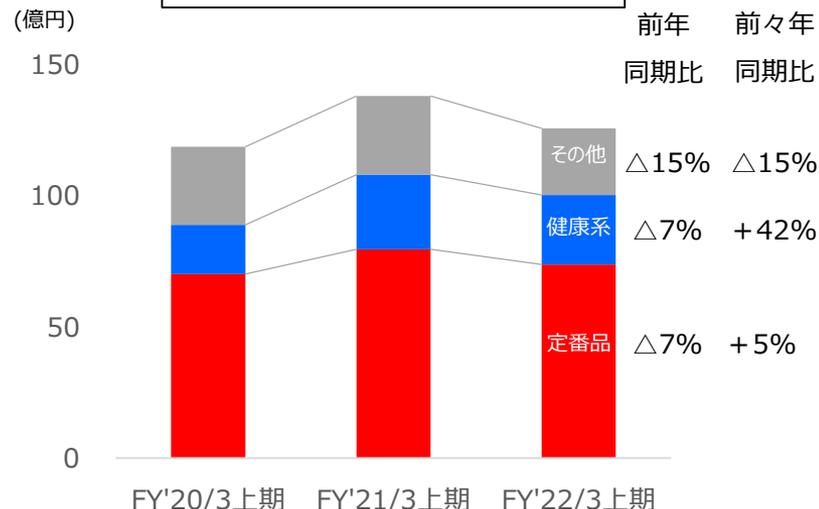


## シリアル

- 前年巣ごもり需要の反動、競合の攻勢により減収
- 健康訴求・機能訴求系は堅調
- 下期以降、お客様が手に取りやすい中容量帯の製品拡充をすすめる



シリアル売上高（国内消費）



## その他

甘しょ事業：仕入れ量を拡大し、卸販売および直営店舗販売がともに好調



かいつかオリジナルブランド『紅天使』



蔵出し焼き芋かいつか  
ラゾーナ川崎プラザ店  
9月オープン

# 2022年3月期上期業績 海外事業

掘りだそう、自然の力。

**Calbee**

(億円)

<地域別実績>	2022年3月期上期			
		前年同期比		為替影響除く 実質伸び率
<b>海外総売上高</b>	<b>305</b>	<b>+38</b>	<b>+14.2%</b>	<b>+6.0%</b>
北米	76	+2	+2.4%	△0.9%
中華圏	91	+12	+15.6%	+5.7%
英国	38	+6	+19.6%	+5.9%
インドネシア	26	+6	+32.6%	+22.3%
その他	73	+11	+18.4%	+9.5%
リポート等控除	△35	-	-	-
<b>海外営業利益</b>	<b>11.0</b>	<b>△5.4</b>	<b>△32.9%</b>	<b>-</b>
営業利益率	※ 3.6%	△2.5pts	-	-
北米	0.5	△3.4	△86.8%	-
中華圏	6.4	△0.0	△0.3%	-
英国	△0.0	△0.7	-	-
インドネシア	△3.7	△2.1	-	-
その他	7.8	+0.8	+11.4%	-
<製品別実績>				
スナック	267	+38	+16.5%	-
シリアル	37	+0	+0.3%	-

※営業利益率（対純売上高）は4.1%

# 2022年3月期上期業績 海外事業

## 北米

### ■ 売上

- ・「Harvest Snaps」はダラーストア業態が伸長
- ・エスニック売場向けスナックはコンテナ不足の影響を受け減収
- ・WarnockのOEMビジネス減収

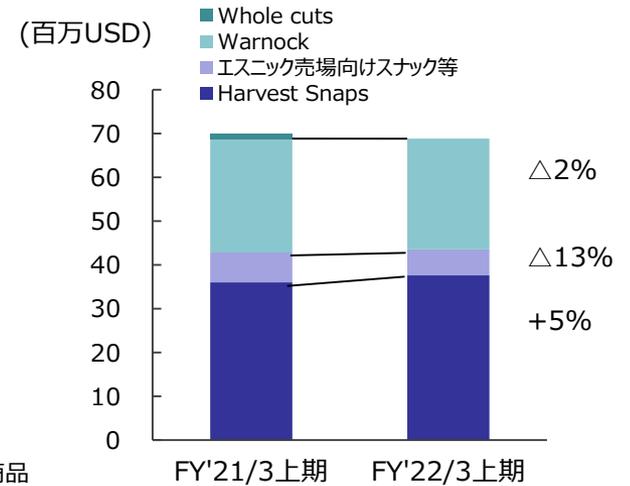
### ■ 営業利益

- ・原材料費率および労務費率の上昇により減益



Warnock製造のカルビーブランド商品「San Joaquin」を上市

北米 売上高 (前年同期比△1%)



## 中華圏

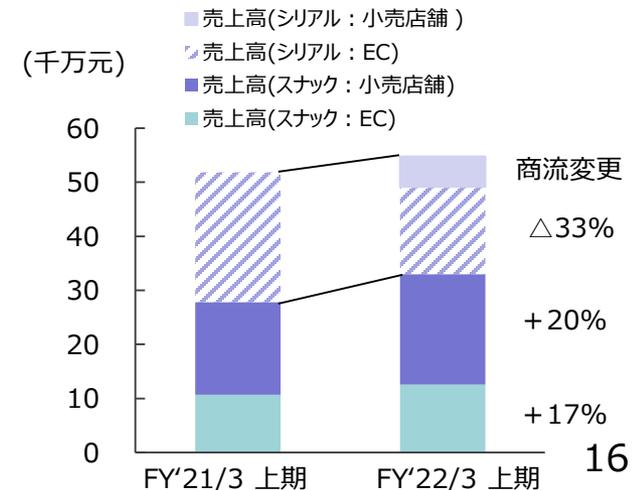
### ■ 売上

- ・スナックは、「Honey Butter Chips」や「じゃがポックル」が EC・小売店舗向けともに好調
- ・シリアルは前年巣ごもり需要の反動減

### ■ 営業利益

- ・プロモーションを積極投入

中華圏 売上高 (前年同期比+6%)



## 英国

### ■ 売上

- ・ポテトチップス(Seabrookブランド)が伸長
- ・スナックは新商品「Loaded Fries」「Loaded Bites」により増収

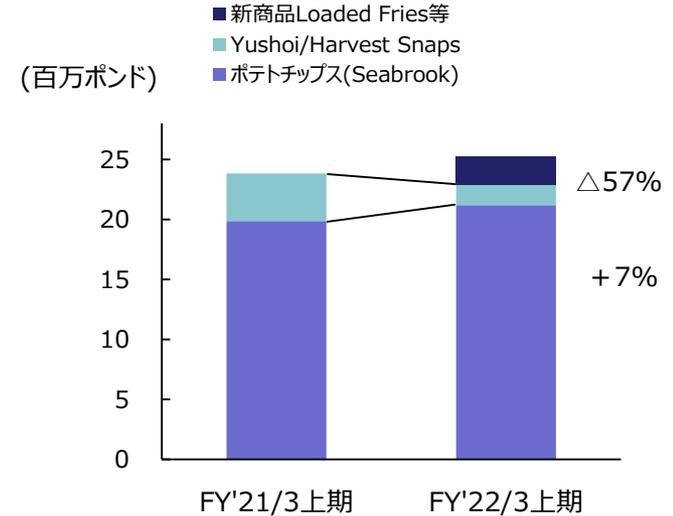
### ■ 営業利益

- ・原材料（食油等）の価格高騰により減益



カルビーブランド「Harvest Snaps」販売開始

英国 売上高 (前年同期比+6%)



## インドネシア

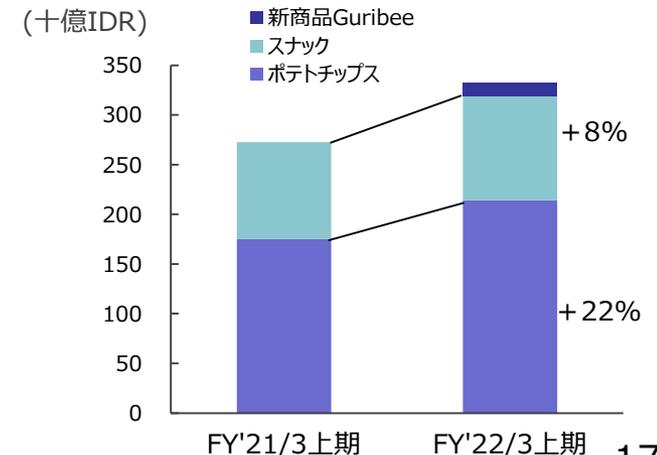
### ■ 売上

- ・ポテトチップスは競合の撤退もあり「Japota」好調
- ・スナックは「Krisbee」好調と新商品「Guribee」投入により増収

### ■ 営業利益

- ・原材料（食油、包材等）の価格高騰により減益

インドネシア 売上高 (前年同期比+22%)



# 2022年3月期上期業績 営業利益分析

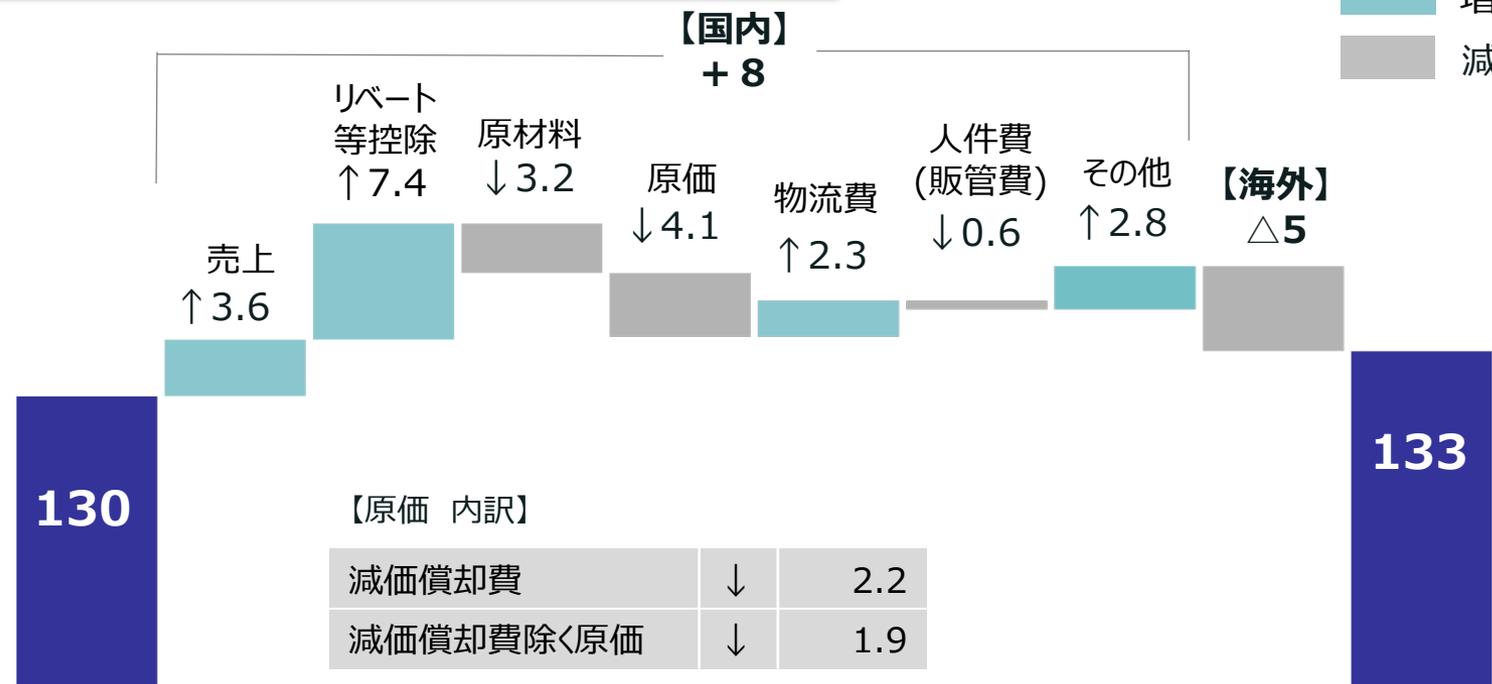
掘りだそう、自然の力。



## 営業利益の増減（前年同期比）

(億円)

■ 増益  
■ 減益



2021年3月期  
上期

2022年3月期  
上期

【国内】

- リポート等控除 : ポテトチップスの販売費抑制
- 原材料費 : 食油価格の高騰(△ 6 億円)、商品ミックス影響(+ 3 億円)
- 原価 : ポテトチップスの販売調整による生産性悪化
- 物流費 : ポテトチップス欠品・休売による追加コスト(前年)
- その他 : マーケティング施策(TVCF等)減

【海外】

原材料の高騰(△ 5 億円)

## 參考資料

# 連結損益計算書

掘りだそう、自然の力。

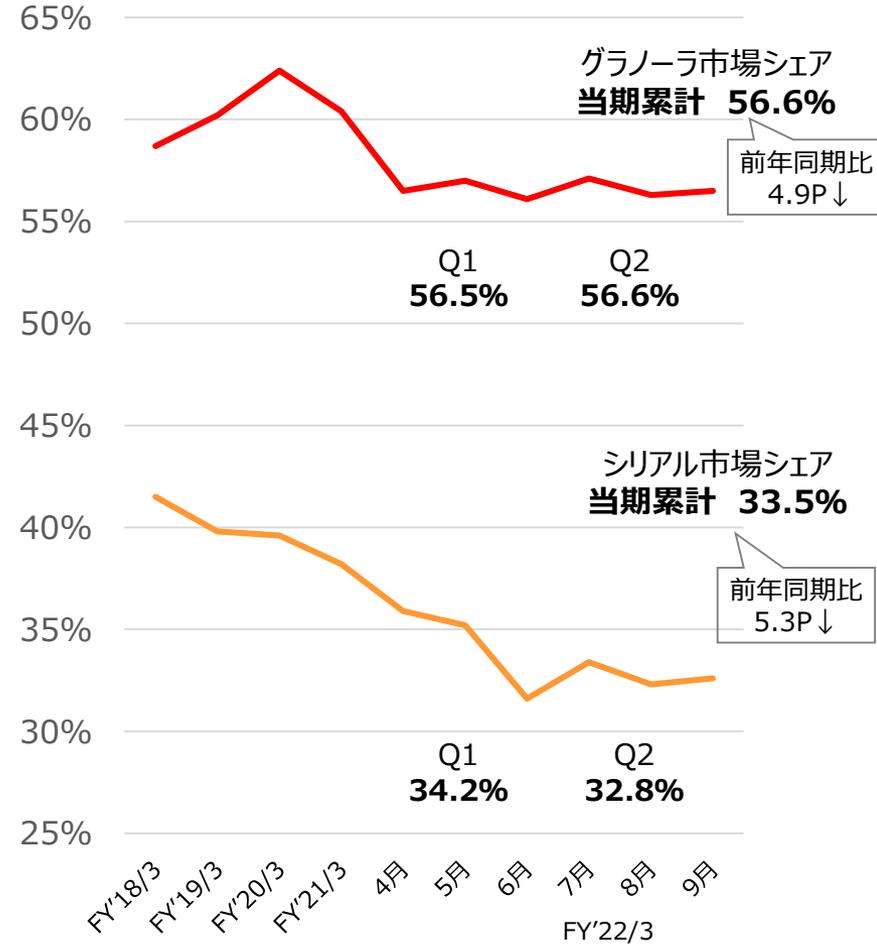
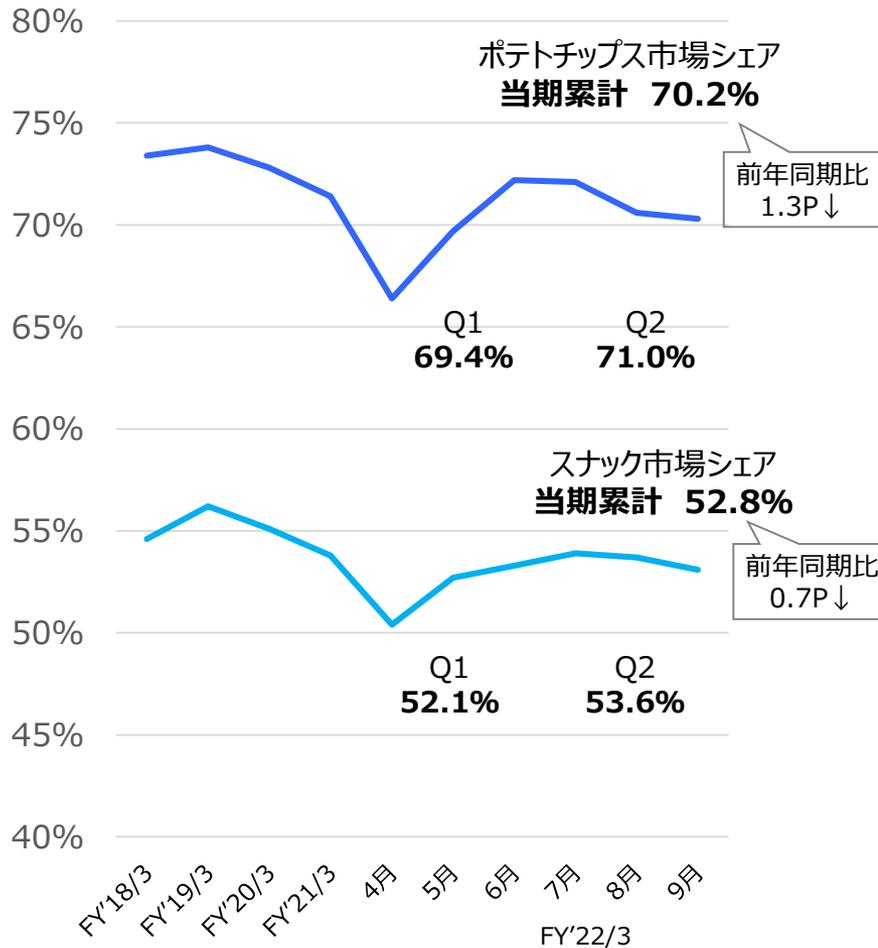
**Calbee**

(百万円)

	2022年3月期 上期実績			2022年3月期 通期計画			
		構成比 (%)	前年同期比 (%)	計画比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)
総売上高	136,193	100.0	—	101.3	275,000	100.0	—
リベート等控除	15,752	11.6	—	97.1	35,000	12.7	—
純売上高	120,440	88.4	—	101.8	240,000	87.3	—
売上総利益	42,089	30.9	—	98.6	87,800	31.9	—
販売管理費	28,787	21.1	—	98.0	59,800	21.7	—
販売費	3,975	2.9	—	93.5	8,400	3.1	—
物流費	9,665	7.1	+0.4	100.8	19,800	7.2	+2.9
人件費	9,776	7.2	+3.2	99.4	20,100	7.3	+4.0
その他経費	5,369	3.9	+2.0	94.2	11,500	4.2	+8.4
営業利益	13,302	9.8	+2.2	100.0	28,000	10.2	+3.5
経常利益	13,574	10.0	+6.5	104.0	27,500	10.0	△0.1
特別損益	△163	—	—	—	△500	—	—
当期純利益 ※	9,178	6.7	+11.6	108.0	18,000	6.5	+1.8

※親会社株主に帰属する当期純利益

## 国内市場シェア



出所：(株)インテージSRI+ 全国全業態 金額ベース  
2021年3月期より(株)インテージSRI+の設計・推計方法が変更されたため、2020年3月期以前の数値を新推計方法に基づき修正しています。

当期累計：2021年4月～2021年9月  
前年同期：2020年4月～2020年9月  
FY'18/3-FY'22/3：2017年4月～2021年9月

スナック市場シェア：カルビーとジャパンフリトレーの合計  
ポテトチップス市場：ポテトチップス(生薄切り・生厚切り)・ポテトシュースト・ケトル合算、非公開PB含む  
グラノーラ市場：シリアル市場・グラノーラカテゴリ

本資料に関するお問い合わせ：

カルビー株式会社 IR課

E-mail：[2229ir@calbee.co.jp](mailto:2229ir@calbee.co.jp)

<https://www.calbee.co.jp/ir/>

- グラフ上の事業年度表記はFY(Fiscal Year)を用いています。FY2022/3(FY'22/3)は2022年3月期を指しており、他の事業年度も同様に表記しております。特にその指定がない表記は、暦年を表しています。
- 本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。